

令和8年度 第1回 碧南市地域福祉計画策定委員会 会議録

1 日時

令和8年6月24日（水）午後2時から午後3時35分

2 場所

へきなん福祉センターあいくる 会議室1・2

3 出席者

(1) 委員 11名

柳原 和弘、石川 徹、石川 茂敏、山中 謙治、清澤 和音、
鈴木 たか子、三浦 志朗、對馬 幸司、鳥居 多佳子、山田 忍、
溝口 雅喜

(2) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻 紀恵 教授

(3) 事務局

ア 碧南市役所

福祉部長 鈴木 美奈子、地域協働課長 齋藤 静絵、
福祉課長 磯貝 浩、高齢介護課長 三島 瑞希、
福祉課福祉総務係長 金原 寛 福祉総務係主事 稲垣 吉朗

イ 碧南市社会福祉協議会

事務局長兼地域福祉課長 伊藤 正博 地域福祉係長 古川 裕隆、

4 傍聴者 0人

5 議事

(1) 議題

ア 次期へきなん地域福祉ハッピープランについて

(ア) 概要

(イ) 策定スケジュール

イ 地域福祉に関するアンケート等の結果について

(ア) 市民アンケート

(イ) 関係団体・関係者アンケート

(ウ) 庁内ヒアリング

ウ 次期へきなん地域福祉ハッピープラン骨子案について

(2) その他

6 議事要旨

(1) 議題

ア 次期へきなん地域福祉ハッピープランについて

(ア) 概要および(イ) 策定スケジュール

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：地域での調査を踏まえて、碧南市として今回の計画の特色を教えてほしい。

【事務局】：大前提として、地域共生社会を目指していく中で、行政側が様々なことをやっていくという形ではなく、地域住民と行政が一体となり、地域防災の問題や近隣の人付き合いの希薄化などの課題に取り組んでいきたい。

また次期計画より、再犯防止推進計画や重層的支援体制整備事業についても内容に含めていく。

イ 地域福祉に関するアンケート等の結果について

(ア) 市民アンケート

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：(別冊1 8ページについて)

“相談窓口を知らない”という意見が1番多いが、現行の計画策定時もそのような意見が多かったか。

【事務局】：当該設問については、今回が初めて。自ら相談しない(できない)理由を明らかにするため、設問を設定した。

【委員】：総合窓口という形にすると形態にもよるが、専門的な窓口を案内されることになり、相談者にとっては手間となってしまう場合もあるのでは。

【事務局】：重層的支援体制整備事業を行うにあたり、総合窓口を設置している他自治体もあるが、碧南市としては既存の相談窓口を強化し、様々な相談を受け入れる体制を整えている。アンケート結果から、その周知が不足していると感じている。

【委員】：昨今のニュースで、AIを利用した事例をよく耳にする。若者にとってはAIが身近なものになっているため、窓口でも何らかの形で関わりがもてるよう勘案しても良いと考える。

【事務局】：検討していきたい。

【委員】：回収率が約半分という結果。残り半分の無回答者が相談しない(できない)層であると感じる。そこに手を差し伸べていきたいと考える。

【事務局】：今回のアンケートよりオンライン回答を導入した。今後も

様々な方法で参加、支援できる方法を検討していきたい。

【委員】：(別冊1 16ページについて)

現在、市内にこども食堂が12か所あり、地域の居場所づくりとして開設している。

地域の居場所については、各地域が自発的に広がることを期待しているのか、行政主導で整備を考えているのか教えてほしい。

【事務局】：地域と行政が単独で進んでいくということは難しいと考えている。具体的な進め方については協議していきたいが、地域の居場所については、地域福祉にとって重要であるという認識である。

(イ) 関係団体・関係者アンケート

＜主な意見・質疑なし＞

(ウ) 庁内ヒアリング

＜主な意見・質疑＞

【委員】：行政の評価についてはすべてA評価となっているが、社会福祉協議会はB評価が多い。B評価の理由を確認したい。

【事務局】：様々な現場で地域の課題や場面に対応していると、足りていないと感じることが多く、達成できていると評価ができない。今後も充実を図っていきたいという考えからB評価としている。

ウ 次期へきなん地域福祉ハッピープラン骨子案について

＜主な意見・質疑＞

【委員】：現行の計画策定時から毎年の評価の際に、アドバイザーより“計画の内容を普段の暮らしに落とし込めるかが大切”という助言をいただいている。長年、重層的支援体制整備事業やアウトリーチの重要性については地域福祉にとって必要であると議論し、次期計画に含まれる方針ということで嬉しく思う。先日、碧南市の行政職員と話す機会があった際も、重層的支援体制整備事業は、碧南市全体として取り組んでいくことになるという話もあり、そのような体制であるということも計画の内容に含めてほしい。

福祉という分野は費用対効果や結果が見えにくいという側面がある。地域には均一的な暮らしというのは存在しない。それぞれの暮らしをどう支えていき、誰一人取り残さないように支援するためにどうしていくべきかというのは日々感じて

いる。それと同時に、この計画で、すべての暮らしを支えるというのは難しいということは承知しているが、支援を受けることができない人をどう拾っていくのかということが大切だと考える。その部分を計画に含めてほしい。

説明の中で、“計画と実践が必要”という言葉があった。ぜひ計画策定後の碧南市の将来像を記載してほしい。言語化をすれば理解してくれる人は増えていくと思う。

【事務局】：将来の展望についても計画に含めるよう検討する。

(2) その他

＜主な意見・質疑＞

【委員】：本計画について、これまで改訂を２回しているが、当初の計画策定の目的などが理解できていない。本計画の根幹について説明がほしい。

【委員】：本日の会議に出席し、自分の経験と照らし合わせながら計画案を確認した。理解できる部分と、理解を深めたい部分があった。

【事務局】：ご指摘のとおり、資料の内容について不足している部分もあるため、次回の内容に反映させたい。

(3) アドバイザー(日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授)による総括
現行の計画から次期計画について、これまでの歩みが理解し辛かったため、資料を用意してもらえると助かる。

この計画は国が定めており、福祉計画は行政が作成し、福祉活動計画は社会福祉協議会が作成するという２段構えとなっている。他自治体は、行政が作成した福祉計画に、福祉活動計画が寄り添う形であるが、碧南市は行政と社会福祉協議会が一緒にやっという新しい方法で取り組んでいる。そこは独自の特色であるため、計画の中でも打ち出していくべきだと考える。

社会福祉協議会は地域課題を間近で見つめている。実際にヤングケアラーなどの地域課題については制度やサービスでは救うことが難しく、地域ではそのような課題が年々増えている。そのような課題を地域として、サポート包囲網をどう作っていくかを計画していくのが本計画。そこを前提として考えていきたい。

碧南市は地域福祉推進会議を前計画の初めから開催している。今年度も各地区２回開催されるということだが、地域の人がこのように集まる機会がある自治体は見たことがない。また、会議内においてもグループワークに行政職員と社会福祉協議会職員が一緒に地域の課題を共有している。そ

の成果はどうか、各地区での活動の歴史や効果を事例集として巻末に掲載すべきだと思う。

碧南市は、福祉教育についても他自治体より数や種類が多い。これも誇って良いこと。最近はメンタルヘルスやL G B T Qの内容を福祉教室で取り入れ、教室終了後に相談につながるという状況が生まれている。まさにアウトリーチとなっている。福祉教育1つとってもアウトリーチに繋がるということが生まれていくので、福祉教育を計画に位置付けるべきだと考える。

最初の計画策定時、地域の声は「地域福祉は行政がやるもの」という意見が散見されたが、今では「この問題、地域でどうしていくべきか」という内容に変わってきている。そのような状況を言語化または図式化で計画内に表現できると市民に伝わりやすいと思う。

最後に、骨子案の中で“地域共生社会の定義”とあるが、「共生社会」と「地域共生社会」を切り分けて考えてほしい。